

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームファミリア西脇		
所在地	静岡県静岡市駿河区西脇521番地の1		
自己評価作成日	平成 30年 8月 17日	評価結果市町村受理日	平成30年 12月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JgyosyoCd=2294200536-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 30年 9月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

バス通りに面したホームは明るい陽射しに包まれ、玄関はいつも開け放して誰でもいつでも立ち寄れる開放的なホームです。地域の方々が内外の行事はもとより個々に『ウエスや新聞』等持って来て下さったり、植木の手入れや花壇作り率先して関わってくださいます。昨年より地域の中学生も防災訓練に参加してくれるようになりました。また、昨年近隣の方より菜園の貸し出しの話を頂き自社事業主の計らいで4月より畑で色々な野菜を作っています。沢山の野菜が実り入居者の皆様も大喜びです。地域の方々に支えられホームが成り立っている事を実感しています。今後も基本理念を基に「その人がその人らしく」生活できるようお客様本位の介護を目指し誰でも立ち寄れるホームでありたいと思います。(自社ホームページのSORA日記で日頃の活動の様子がみられます。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、法人の基本理念「家族の和を基とし、常に互いを尊敬、感謝する心を持ち、共に学び、共に支え、共に歩む」を毎日の唱和だけでなく半年に1回法人の資料を読み込み、日頃の関わりから不適切な言葉使いで相手はどんな思いをするかなど事例を挙げて反省文を書いている。又、ミーティング時にも理念に立ち戻って話し合いをしていて、職員に浸透され声掛けや相手を思いやる対応などに変化が出てきている。事業所と地域との関係は良く、運営推進会議に町内会長・民生委員長・元民生委員(地域サポーター)・ふれあいサロン会長などが参加し意見やアドバイスを受けている。地域行事には積極的に参加し、知り合いから声をかけてもらえたり、事業所の行事に地域住民の参加があって交流している。災害時の協力体制も築けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を事務所に掲示し、朝礼時に唱和し、職員に周知できる様にしている。新人職員は採用後に、管理者とオリエンテーションを実施し、基本理念に基づいた職務への姿勢について、教育を実施する。また、常に会議等でも理念の再確認を行っている。	法人の理念と3年前管理者と職員で話し合っ て作ったホーム理念を掲示してある。半年に 一度法人の資料を読み込み、職員は日頃の 関わりからの事例を挙げ反省文を書いている。 理念に立ち戻っての対応に努め声掛けな どに変化が出てきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一人として日常的に交 流している	地域行事には積極的に参加し、地域の方々 も温かく迎えて下さっている。また、地域の 皆様もホームの行事に、ボランティアとして 参加して下さい。段ボール等の廃品回 収も、地域と連携して行っている。	地域住民と互いの行事で交流する機会が多 い。近くの公民館で認知症サポーター養成講 座を開催後、直接事業所へ相談に訪れて来 る人や入所希望の問い合わせがあって、事 業所への理解が深まってきた。住民から野 菜・ウエス・新聞紙で作ったゴミ袋など届けて くれている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	中学生の職場体験や、養護学校の学生が実習場 所として利用して頂く事で、福祉現場を学ぶ場と して、社会貢献している。また地域の災害訓練時 には、地元の中学生を施設の避難訓練に参加で きる様、地域団体に提案した。以後、学校の福祉体 験として毎年、恒例となる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評 価への取り組み状況等について報告や話し合いを 行い、そこでの意見をサービス向上に活かしてい る	二か月に一回、運営推進会議を開催し、包括、町 内会長、民生委員、薬剤師、入居者様の御家族 様等にご参加頂いている。ホームの近況報告を 通じて、新規入居者様のご紹介や、ホームの今 後の行事イベントをお伝える事で、慰問の計画 が立てられたり、地域とホームを繋げる場として 活かされている。	必要なメンバーを揃え、定期開催をしている。 2ヶ月間の近況報告は具体的で、議題は防 災訓練の報告やリスクマネジメント委員会か ら身体拘束の法律改正に伴う会議の報告等 をしている。参加者から意見やアドバイスを 受けられている。家族に議事録の配布はして いない。	家族に議事録の配布を行ない、そこに 感想・意見欄等を設けるなどの工夫し て会議への参加に繋がる取り組みに 期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え ながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護支援相談員の方が、毎月訪問して下さ り、職員とは違う立場から入居者様と接して 下さっている。また、生活保護受給の入居者 様もいらっしゃる為、市の支援課職員とも連 携を図っている。	行政・地域包括支援センターから困難事例の 受け入れ要請などがあって受け入れている。 その後の利用者の状態について連携を取っ ている。地域包括支援センター職員は毎回運 営推進会議に参加している。連携して地域住 民を対象に「認知症サポーター養成講座」を 開講した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針に基づき、リス クマネジメント委員会により、二か月に一 回、会議を実施。ホーム会議において、入居 者様の尊厳と拘束がもたらす弊害を正確に 認識した上で、各職員から「これは拘束にあ たるのか。」との疑問が出され、具体的な事 例を挙げ、管理者の適切で解りやすい指導 を受けている。	玄関・フロアの扉は施錠せず自由に行きたい 所へ行くことができる。離床センサー等の使 用もない。夜勤者が安全の為行った対応につ いてや職員が手を離せない状況の時に言っ た言葉が拘束にあたるのではないかなど事 例を検討して、拘束の正しい理解と対応に努 めている。	

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長の指導の元、何気なく行っている言動がお客様にどのような影響を与えてしまうのかを学んでいる。また、介護者自身の気持ちや悩みを話す機会を設けている。チームケアを徹底し、楽しく働ける職場作りを目指す事により、職員のストレスを軽減する事が、虐待防止に繋がる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングを通じ、制度の理解に努めている。実際に利用されている入居者様もいらっしやった為、相談員等を通じ、制度への理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧な読み合わせを行い、入所にあたり不安や疑問を解消していただける様、支援している。また、入居前・入居後・退去後の手続きがスムーズに行える様、御家族様と密な連絡を図り、信頼関係を築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃、入居者様に大きな変調がみられた際には、速やかに御家族様にご連絡したり、面会時には直接、近況報告を行っている。家族会を開催し、ホームで提供している手作りおやつを召し上がって頂いたり、風通しの良い環境作りに努めている。	家族が面会に来た時や電話で連絡する時に話しやすい環境を作り、コミュニケーションをとり、家族の思いや意見を聞くようにしている。「外に出させて欲しい」要望があり、天候を見て出かけられるようにしている。利用者の要望は計画に載せ反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者と職員の個人面談を行い、個別に意見を伺う機会を設けている。また、防災や感染症、リスクマネジメント、環境整備などの各委員会を発足し、委員としての責任感を持ち、施設運営に関わる仕事に従事し、意見交換している。	職員は何でも言える風通しの良い環境である。管理者は職員からの提案が利用者の思いに主体であるか、対応であるかを説明している。認知症ケアを学んで理解し実践で反映させている。職員は委員会に属し自ら行動する方向で反映させる仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給、残業手当の支給を行い、労働意欲の維持・向上に配慮している。パート職員の協力によって運営が維持できている事に、会社より感謝として、一時金が支給された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務の中でも常に職員同士が支え合い、分からない事はその場で確認、報告をしている。管理者は個人の力量を把握し、指導やサポートを行っている。個々の技量を高める研修等の参加の声掛けもあり、参加できるものは積極的に参加を促している。		

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に出席し、多種職の専門職との意見交換を行っている。また、年間を通して開催されている介護に関する研修・勉強会等の参加の呼びかけや案内の用紙が回覧され、参加者を募っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様一人ひとりとの会話を大事にし、毎日の生活の中で、なるべくご本人様が不安なく、生活できる様、日々努めている。入所当初は特に、管理者や職員間で情報共有に留意し、連携を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の際は管理者が対応し、入居前に面談に伺い、ご本人様のご様子や御家族様の思いを情報収集し、関係作りを行っている。入居にあたり、心配事や引っ越しの準備等の相談も、その都度、行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスの見極めを行い、他にできる事はないか等、多面的に考え、ご本人様にとってより良い方向になる様、工夫を行っている。例えば、福祉用具等も安易に購入するのではなく、経済状況も鑑み、ホームで自作したり工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯物畳みを一緒に行ったり、団欒時に楽しい話題を取り上げて会話をしている。また、個々の入居者様の生活歴や従事されていた仕事に関わるような事を把握し、生活の中に反映して頂ける様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には、個々の居室へご案内したり、逆に他の入居者様と御家族様が会話する機会を持てるようにしたり、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。また、看取り対応を行っている入居者様に対しては、御家族様が最期の時間を密に過ごせるように、関わりを促したり、配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様だけでなく、兄弟姉妹や親族、友人等のご訪問がある方もいらっしゃる。地域の敬老会等に参加し、地域の公民館や神社等、地域の一員として関係を途切れない様にしていく。	地域から入所している利用者に、通っていたシルバー大学の先生が訪れてきたり、ふれあいサロンで一緒だった馴染みの人たちとの交流が継続してある。地元の神社へ初詣に行ったり、どんど焼きなどに参加して馴染みの行事や場所に出かけられるよう支援している。	

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者様の性格や認知症の症状などを把握し、会話や生活を共にする仲間として過ごせる様、席の配置等、配慮している。新規入居者様は、溶け込みやすい様、社交的な入居者様と関わって頂ける様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	良好な関係を築き、信頼関係が育まれている為、契約が終了になった入居者様の御家族様とも、他の入居者様をご紹介頂いたり、変わらず必要時には連絡を取ることができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者様の気持ちに沿える様、日頃から一人ひとりの思いを大切に、集団生活の中でもその人らしい暮らしが出来る様、思いや希望の把握に努めている。認知症症状を、その人らしさとして受け止め、本人様が安心できる対応を模索している。	会話を重ねることでその人が解ると、利用者の昔の話や困ったこと、やりたいこと何でも耳を傾け、思いを受け止め一緒に行動するように努めている。発語が困難な人の表情を観察し、家族との間に入って話を取り持つことで思いを伝えられることがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居判定時に、これまでの生活環境や利用サービス等の情報を周知し、どの様にホームの生活に馴染んで頂けるのか、日々の申し送りや担当者会議で職員間で情報交換している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の心身の状態を維持するためには、どの様な一日の過ごし方や介護支援の方法が適しているのか、管理者と共にケアの方法を考えている。また、ケアの統一表を用い、日課として継続が必要な支援内容は、どの職員も実施する様、チェックしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は、各担当の入居者様を受け持ち、介護支援計画書の更新時期にはアセスメントを実施し、担当者会議を開催し、現状の目標設定をチームで考えている。また、看取り介護開始時には、医療スタッフ、御家族様が同席し、担当者会議を開催している。	6ヶ月に1度計画の見直しをしている。管理者・ケアマネジャー・担当職員と他職員が出席して担当者会議を開き話し合っって現状に即した暫定的な計画書を作成している。面会時や電話で家族に説明をし話し合っている。ケアマネジャーが最終の計画書を作成し家族に確認を貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基に、毎朝の申し送り時に、夜勤者から管理者、当日の日勤者に前日の様子を伝え、情報の共有やケアの工夫を行っている。職員間でも申し送りノートを作成し、周知に努めている。		

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にお客様本位の暮らしを尊重し、必要な場合は御家族様の希望に沿える様に考え、支援していく。具体的には、看取りの際に、御家族様にお葬式の相談に乗ったり、他医院への通院の為に介護タクシーの手配等も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長、民生委員、地域住民の方々を中心に、花壇作り、七夕の飾りつけや行事の慰問等、定期的に行事に参加して下さっている。また、地域の夏祭りやどんど焼き等、入居様が地域行事へ参加できる様、外出イベントも企画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設提携医は月二回定期往診を実施。不調時は個別対応にて往診している。必要時には、施設提携医院の看護師が訪問看護し、主治医と連携を図っている。また、24時間体制で緊急時の相談に医師が応じてくれている。	馴染みの主治医の往診に家族が立ち会う一名以外は、提携の往診がある。薬剤師は毎回立ち会って直接医師と薬について話し合い、連携を取っている。他科受診は提携医からの紹介状を持って家族が対応し結果は(医師・事業所)聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、当施設の訪問看護による健康チェックや処置等の指導を受け、医療機関との連携を図っている。また、点滴・注射等の医療行為も提携医院の看護師が訪問し、実施する事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に至るまでの情報提供や、退院後のホームでの受け入れ態勢などの情報交換を密に行い、スムーズに治療や退院支援が行える様に、連携を図っている。また、入居希望者の紹介等の営業活動を通じて、顔の見える関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、「重度化した場合の対応に関わる指針」の内容に基づき、容態の変化が見られた際に、適切に御家族様への報告を行い、医師との連携を図り、看取り介護開始時期について検討していく。御家族様、ホーム、医療スタッフの出席する担当者会議を実施し、看取りに向けての意識の統一を図っている。	提携医は24時間オンコールで対応してくれ、重度化して看取り時期に入ると頻繁に来てくれる体制がある。居室で不安や寂しい思いをさせたくないと言生活音や人の温もりを感じられるよう皆のいる所に出来るだけいてもらう対応をしている。今年度4名の看取り支援を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署から提出されている「緊急搬送時の情報提供シート」や提携医からの「受診連絡票」を必要事項は事前に記入する事で、救急搬送時の時間ロスを軽減している。また、希望する医療行為等の家族のニーズを聞き取りし、適切な対応を心掛けている。		

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、総合訓練を実施。消防署に自衛消防訓練等通知書を提出し、駐車場への避難訓練、通報、初期消火、職員の連絡網のテストを行う。加えて、三か月に一回、自主的にミニ防災訓練を実施。夜間帯の災害も想定して実施している。	地域の防災訓練時、管理者が担当者に地域の中学生の協力を要請し5～6名の中学生が継続して避難誘導など参加している。近くに海や河川があり、津波・洪水・火災を想定した訓練を防災委員が主導して行っている。夜間想定訓練を年1回行っている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の個性を尊重し、その方に合った言葉かけの選択を行っている。排泄介助の際など、自尊心を傷つけない様にし、入居者様が罪悪感を感じられない様に配慮している。	入浴時、排泄介助は相手の立場になってトイレの扉は閉めるや同姓介助の希望に応えるなどしている。理念の「常に互いを尊敬し」を下に声掛けや言葉使いに注意して対応している。1人で居室で過ごしたい思いを尊重し見守って対応している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の方の要望や希望を極力、表出して頂ける様にスタッフの態度や声掛けを工夫し、本人様が納得できるように支援している。本人様のニーズを否定せず、出来る限り満たす事で安心感を抱いて頂き、精神の安定を図っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者様の個性や生活のリズムを大切に、今までの生活リズムを損なわない様に配慮している。夜遅くまでテレビを見たい方、今までの職業柄、睡眠時間が非常に短い方等いらっしゃいますが、健康を害しない範囲で、その方の生活サイクルを尊重した対応を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で髪や服装を整えられる方をフォローし、余りできない方もご本人様と協力し、整えている。自立支援の一環としても、髭剃りをご自身で行って頂く様、職員が声掛け・準備等を行っている。三か月に一回、訪問理容にて散髪を実施。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や皿洗い等、手伝って頂ける方には協力して頂いている。他の方も職員が調理している風景を見たり、料理の臭いを感じて頂く事で、食事の時間を楽しみに待ち、食欲増進を促している。	食材と献立が届き、利用者の出来る人が関わり職員と手作りで3食作っている。又、近所からのおすそ分けや畑で収穫した野菜を惣菜やおやつとして食卓に載せている。職員は見守り声掛けして楽しく食事ができるよう支援している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嚥下・咀嚼能力に合わせ、安全に美味しく食事ができる様に考えている。また、食事状況を観察し、使用する箸やスプーンなどの選択を行ったり、食事をご提供する順番や、食器の配置や数などにも配慮している。	

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアの実施を促している。歯の痛みや義歯の不具合の訴えがあった際は、訪問歯科を依頼し、週一回程の往診を行っている。歯科医より居宅療養管理指導や報告書を頂く事で、口腔内の状況確認ができています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々の排泄リズムの把握に努めている。トイレ誘導を定期的実施し、陰部洗浄はその都度実施し、清潔保持に努めている。本人様の希望を優先し、頻回なトイレ誘導も対応したり、パットの使用を減らしたり、布パンツに移行したり、尿意・便意の見極めを行っている。	リハビリパンツにパッド使用で頻回にトイレ希望する人に本人の要求に応えながら間隔をあけられる様に支援をし続けることで失禁がなくなり布パンツに変更できた事例がある。夜間頻回に行きたい人が、昼間の動きや水分補給に気を配り支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬による排便コントロールを行い、定期的な排泄を促している。水分摂取量は一日の合計を集計し、必要量を摂取出来ているか把握している。便状態等を往診時に主治医に伝え、薬の種類や量も、適時、変更して様子観察している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を用い、定期的に入浴を実施している。拒否等も記録に残したり、少しでも拒否が少なく入浴出来た方法を職員間で情報統一する事で、スキルの差を少なくし、常に不快感無く入浴できる環境作りに努めている。	湯は毎日沸かし、職員の体制が整っている朝や午後に入浴している。浴槽は大きく仲良しの利用者同士が2人ではいることがある。洗髪の嫌いな人お風呂を拒否する人に「お風呂」と言わず別の話をしながら浴室まで誘導すればはいることがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、全体レクを提供し、活動的に過ごす時間と、食後にのんびり過ごす時間と、日中の中でもメリハリのある時間作りをしている。また、夕方から就寝前は穏やかな声掛けを意識し、入眠しやすい環境作りに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスがないように、トリプルチェックを行っている。月二回の往診時に処方される薬や状況に応じた臨時処方も、薬剤師が対応し、配薬をしてもらっている。常に薬剤師と連携を図り、薬の管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の一人ひとりの特徴を考え、出来る事を職員と一緒にしてもらっている。季節を感じられる掲示物作りや、ホームの畑で野菜を栽培し、収穫の喜びを感じて頂いたり、生活に張りや楽しみが持てるように支援している。		

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い季節は、積極的に散歩を実施している。また、季節の花々や紅葉を鑑賞する外出レクや、ドライブ等も実施し、四季折々に触れる機会をもっている。	ほぼ毎日、天候を見て外に出て玄関前の花壇や畑の様子を見ながらの外気浴をしている。3日に分けてドライブに行ったり年3回は全員で花見や紅葉狩りなどに出かけている。地域行事には職員と一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には管理者が御家族様よりお小遣いをお預かりし、管理している。散髪代や消耗品等の購入等、必要時には御家族様にまずは連絡し、ご承諾頂いてから、購入させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より、家族に電話をしたい等のご希望があった際は、御家族様の状況を配慮しつつ、管理者が取次ぎを行っている。また、頻繁に御家族様への連絡を所望される入居者様には、まずはホームで安心して過ごして頂ける様、声掛けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が触れる場所は(テーブル・床・手すり・トイレ等)は、毎日ジアノックで消毒し、清潔を心掛けている。入居者様の動線を考え、障害物等を減らし、事故が起きない様に配慮している。、壁面には入居者様の作品(絵や習字等)や、共同で作成した季節の壁紙等を掲示している。	テーブルと椅子のコーナーとテレビの前に大きめのソファがこの字型に置かれた空間があり、好きな場所で寛いでいる。カーテンを閉めず自然の光から昼夜のメリハリをつけるようにしている。心地よく過せるよう自然の生花や南瓜などを飾ったり、季節を感じる作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に、ゆったり座れるソファを配置し、気の合う入居者様同士が誘い合って、一緒にテレビ鑑賞したり、談笑されている。また、車いすの入居者様も一日中、車いすに座って頂くのではなく、ソファに移乗し、リラックスする時間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が慣れ親しんだ家具や写真、趣味で作成した作品などを居室に置くことで、今までの生活と似た空間になるように工夫している。	ベッド・筆筒が用意されていて、馴染みの家具やテレビ・仏壇・位牌・電動剃刀などが持ちこまれている。置き場に拘りを持って自分らしく過せるようになっている部屋がある。職員は毎日筆筒の中の衣類をたたみ直している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声掛け・見守りでご自分のできる事は自分でやって頂き、能力の維持に努めている。また、介助の必要な方には、必要以上の介助は避け、少しでも自力で出来る事があれば、安全に気を付け、見守りし自力でやって頂く。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200536		
法人名	株式会社宇宙SORA		
事業所名	グループホームファミリア西脇		
所在地	静岡県静岡市駿河区西脇521番地の1		
自己評価作成日	平成 30年 8月 17日	評価結果市町村受理日	平成30年 12月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JgyosyoCd=2294200536-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 30年 9月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

バス通りに面したホームは明るい陽射しに包まれ、玄関はいつも開け放しで誰でもいつでも立ち寄れる開放的なホームです。地域の方々が内外の行事はもとより個々に『ウエスや新聞』等持って来て下さったり、植木の手入れや花壇作り率先して関わって下さいます。昨年より地域の中学生も防災訓練に参加してくれるようになりました。また、昨年近隣の方より菜園の貸し出しの話を頂き自事業主の計らいで4月より畑で色々な野菜を作っています。沢山の野菜が実り入居者の皆様も大喜びです。地域の方々に支えられホームが成り立っている事を実感しています。今後も基本理念を基に「その人がその人らしく」生活できるようお客様本位の介護を目指し誰でも立ち寄れるホームでありたいと思います。(自社ホームページのSORA日記で日頃の活動の様子がみられます。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を事務所に掲示し、朝礼時に唱和し、職員に周知できる様にしている。新人職員は採用後に、管理者とオリエンテーションを実施し、基本理念に基づいた職務への姿勢について、教育を実施する。また、常に会議等でも理念の再確認を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には積極的に参加し、地域の方々も温かく迎えて下さっている。また、地域の皆様もホームの行事に、ボランティアとして参加して下さっている。段ボール等の廃品回収も、地域と連携して行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験や、養護学校の学生が実習場所として利用して頂く事で、福祉現場を学ぶ場として、社会貢献している。また地域の災害訓練時には、地元の中学生を施設の避難訓練に参加できる様、地域団体に提案した。以後、学校の福祉体験として毎年、恒例となる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回、運営推進会議を開催し、包括、町内会長、民生委員、薬剤師、入居者様の御家族様等にご参加頂いている。ホームの近況報告を通じて、新規入居者様のご紹介や、ホームの今後の行事イベントをお伝えする事で、慰問の計画が立てられたり、地域とホームを繋げる場として活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護支援相談員の方が、毎月訪問して下さい、職員とは違う立場から入居者様と接して下さい。また、生活保護受給の入居者様もいらっしゃる為、市の支援課職員とも連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針に基づき、リスクマネジメント委員会により、二か月に一回、会議を実施。ホーム会議において、入居者様の尊厳と拘束がもたらす弊害を正確に認識した上で、各職員から「これは拘束にあたるのか。」との疑問が出され、具体的な事例を挙げ、管理者の適切で解りやすい指導を受けている。		

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設長の指導の元、何気なく行っている言動がお客様にどのような影響を与えてしまうのかを学んでいる。また、介護者自身の気持ちや悩みを話す機会を設けている。チームケアを徹底し、楽しく働ける職場作りを目指す事により、職員のストレスを軽減する事が、虐待防止に繋がる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングを通じ、制度の理解に努めている。実際に利用されている入居者様もいらっしやった為、相談員等を通じ、制度への理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧な読み合わせを行い、入所にあたり不安や疑問を解消していただける様、支援している。また、入居前・入居後・退去後の手続きがスムーズに行える様、御家族様と密な連絡を図り、信頼関係を築いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃、入居者様に大きな変調がみられた際には、速やかに御家族様にご連絡したり、面会時には直接、近況報告を行っている。家族会を開催し、ホームで提供している手作りおやつを召し上がって頂いたり、風通しの良い環境作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に管理者と職員の個人面談を行い、個別に意見を伺う機会を設けている。また、防災や感染症、リスクマネジメント、環境整備などの各委員会を発足し、委員としての責任感を持ち、施設運営に関わる仕事に従事し、意見交換している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給、残業手当の支給を行い、労働意欲の維持・向上に配慮している。パート職員の協力によって運営が維持できている事に、会社より感謝として、一時金が支給された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務の中でも常に職員同士が支え合い、分からない事はその場で確認、報告をしている。管理者は個人の力量を把握し、指導やサポートを行っている。個々の技量を高める研修等の参加の声掛けもあり、参加できるものは積極的に参加を促している。		

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に出席し、多種職の専門職との意見交換を行っている。また、年間を通して開催されている介護に関する研修・勉強会等の参加の呼びかけや案内の用紙が回覧され、参加者を募っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様一人ひとりとの会話を大事にし、毎日の生活の中で、なるべくご本人様が不安なく、生活できる様、日々努めている。入所当初は特に、管理者や職員間で情報共有に留意し、連携を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の際は管理者が対応し、入居前に面談に伺い、ご本人様のご様子や御家族様の思いを情報収集し、関係作りを行っている。入居にあたり、心配事や引っ越しの準備等の相談も、その都度、行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスの見極めを行い、他にできる事はないか等、多面的に考え、ご本人様にとってより良い方向になる様、工夫を行っている。例えば、福祉用具等も安易に購入するのではなく、経済状況も鑑み、ホームで自作したり工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯物畳みを一緒に行ったり、団欒時に楽しい話題を取り上げて会話をしている。また、個々の入居者様の生活歴や従事されていた仕事に関わるような事を把握し、生活の中に反映して頂ける様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時には、個々の居室へご案内したり、逆に他の入居者様と御家族様が会話する機会を持てるようにしたり、訪問しやすい雰囲気作りにも努めている。また、看取り対応を行っている入居者様に対しては、御家族様が最期の時間を密に過ごせるように、関わりを促したり、配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様だけでなく、兄弟姉妹や親族、友人等のご訪問がある方もいらっしゃる。地域の敬老会等に参加し、地域の公民館や神社等、地域の一員として関係を途切れない様にしていく。		

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各入居者様の性格や認知症の症状などを把握し、会話や生活を共にする仲間として過ごせる様、席の配置等、配慮している。新規入居者様は、溶け込みやすい様、社交的な入居者様と関わって頂ける様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	良好な関係を築き、信頼関係が育まれている為、契約が終了になった入居者様の御家族様とも、他の入居者様をご紹介頂いたり、変わらず必要時には連絡を取ることができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者様の気持ちに沿える様、日頃から一人ひとりの思いを大切に、集団生活の中でもその人らしい暮らしが出来る様、思いや希望の把握に努めている。認知症症状を、その人らしさとして受け止め、本人様が安心できる対応を模索している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居判定時に、これまでの生活環境や利用サービス等の情報を周知し、どの様にホームの生活に馴染んで頂けるのか、日々の申し送りや担当者会議で職員間で情報交換している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の心身の状態を維持するためには、どの様な一日の過ごし方や介護支援の方法が適しているのか、管理者と共にケアの方法を考えている。また、ケアの統一表を用い、日課として継続が必要な支援内容は、どの職員も実施する様、チェックしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は、各担当の入居者様を受け持ち、介護支援計画書の更新時期にはアセスメントを実施し、担当者会議を開催し、現状の目標設定をチームで考えている。また、看取り介護開始時には、医療スタッフ、御家族様が同席し、担当者会議を開催している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基に、毎朝の申し送り時に、夜勤者から管理者、当日の日勤者に前日の様子を伝え、情報の共有やケアの工夫を行っている。職員間でも申し送りノートを作成し、周知に努めている。		

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にお客様本位の暮らしを尊重し、必要な場合は御家族様の希望に沿える様に考え、支援していく。具体的には、看取りの際に、御家族様にお葬式の相談に乗ったり、他医院への通院の為に介護タクシーの手配等も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長、民生委員、地域住民の方々を中心に、花壇作り、七夕の飾りつけや行事の慰問等、定期的に行事に参加して下さっている。また、地域の夏祭りやどんど焼き等、入居様が地域行事へ参加できる様、外出イベントも企画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設提携医は月二回定期往診を実施。不調時は個別対応にて往診している。必要時には、施設提携医院の看護師が訪問看護し、主治医と連携を図っている。また、24時間体制で緊急時の相談に医師が応じてくれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、当施設の訪問看護による健康チェックや処置等の指導を受け、医療機関との連携を図っている。また、点滴・注射等の医療行為も提携医院の看護師が訪問し、実施する事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に至るまでの情報提供や、退院後のホームでの受け入れ態勢などの情報交換を密に行い、スムーズに治療や退院支援が行える様に、連携を図っている。また、入居希望者の紹介等の営業活動を通じて、顔の見える関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、「重度化した場合の対応に関わる指針」の内容に基づき、容態の変化が見られた際に、適切に御家族様への報告を行い、医師との連携を図り、看取り介護開始時期について検討していく。御家族様、ホーム、医療スタッフの出席する担当者会議を実施し、看取りに向けての意識の統一を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署から提出されている「緊急搬送時の情報提供シート」や提携医からの「受診連絡票」を必要事項は事前に記入する事で、救急搬送時の時間ロスを軽減している。また、希望する医療行為等の家族のニーズを聞き取りし、適切な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、総合訓練を実施。消防署に自衛消防訓練等通知書を提出し、駐車場への避難訓練、通報、初期消火、職員の連絡網のテストを行う。加えて、三か月に一回、自主的にミニ防災訓練を実施。夜間帯の災害も想定して実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の個性を尊重し、その方に合った言葉かけの選択を行っている。排泄介助の際など、自尊心を傷つけない様にし、入居者様が罪悪感を感じられない様に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の方の要望や希望を極力、表出して頂ける様にスタッフの態度や声掛けを工夫し、本人様が納得できるように支援している。本人様のニーズを否定せず、出来る限り満たす事で安心感を抱いて頂き、精神の安定を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの入居者様の個性や生活のリズムを大切にし、今までの生活リズムを損なわない様に配慮している。夜遅くまでテレビを見たい方、今までの職業柄、睡眠時間が非常に短い方等いらっしゃいますが、健康を害しない範囲で、その方の生活サイクルを尊重した対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で髪や服装を整えられる方をフォローし、余りできない方もご本人様と協力し、整えている。自立支援の一環としても、髭剃りをご自身で行って頂く様、職員が声掛け・準備等を行っている。三か月に一回、訪問理容にて散髪を実施。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や皿洗い等、手伝って頂ける方には協力して頂いている。他の方も職員が調理している風景を見たり、料理の臭いを感じて頂く事で、食事の時間を楽しみに待ち、食欲増進を促している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嚥下・咀嚼能力に合わせ、安全に美味しく食事ができる様に考えている。また、食事状況を観察し、使用する箸やスプーンなどの選択を行ったり、食事をご提供する順番や、食器の配置や数などにも配慮している。		

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、口腔ケアの実施を促している。歯の痛みや義歯の不具合の訴えがあった際は、訪問歯科を依頼し、週一回程の往診を行っている。歯科医より居宅療養管理指導や報告書を頂く事で、口腔内の状況確認ができています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々の排泄リズムの把握に努めている。トイレ誘導を定期的実施し、陰部洗浄はその都度実施し、清潔保持に努めている。本人様の希望を優先し、頻回なトイレ誘導も対応したり、パットの使用を減らしたり、布パンツに移行したり、尿意・便意の見極めを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬による排便コントロールを行い、定期的な排泄を促している。水分摂取量は一日の合計を集計し、必要量を摂取出来ているか把握している。便状態等を往診時に主治医に伝え、薬の種類や量も、適時、変更して様子観察している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を用い、定期的に入浴を実施している。拒否等も記録に残したり、少しでも拒否が少なく入浴出来た方法を職員間で情報統一する事で、スキルの差を少なくし、常に不快感無く入浴できる環境作りに努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、全体レクを提供し、活動的に過ごす時間と、食後にのんびり過ごす時間と、日中でもメリハリのある時間作りをしている。また、夕方から就寝前は穏やかな声掛けを意識し、入眠しやすい環境作りに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスがないように、トリプルチェックを行っている。月二回の往診時に処方される薬や状況に応じた臨時処方も、薬剤師が対応し、配薬をしてもらっている。常に薬剤師と連携を図り、薬の管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の一人ひとりの特徴を考え、出来る事を職員と一緒にしてもらっている。季節を感じられる掲示物作りや、ホームの畑で野菜を栽培し、収穫の喜びを感じて頂いたり、生活に張りや楽しみが持てるように支援している。		

静岡県(グループホーム ファミリア西脇)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い季節は、積極的に散歩を実施している。また、季節の花々や紅葉を鑑賞する外出レクや、ドライブ等も実施し、四季折々に触れる機会をもっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には管理者が御家族様よりお小遣いをお預かりし、管理している。散髪代や消耗品等の購入等、必要時には御家族様にまずは連絡し、ご承諾頂いてから、購入させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より、家族に電話をしたい等のご希望があった際は、御家族様の状況を配慮しつつ、管理者が取次ぎを行っている。また、頻繁に御家族様への連絡を所望される入居者様には、まずはホームで安心して過ごして頂ける様、声掛けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が触れる場所は(テーブル・床・手すり・トイレ等)は、毎日ジアノックで消毒し、清潔を心掛けている。入居者様の動線を考え、障害物等を減らし、事故が起きない様に配慮している。、壁面には入居者様の作品(絵や習字等)や、共同で作成した季節の壁紙等を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前に、ゆったり座れるソファを配置し、気の合う入居者様同士が誘い合って、一緒にテレビ鑑賞したり、談笑されている。また、車いすの入居者様も一日中、車いすに座って頂くのではなく、ソファに移乗し、リラックスする時間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が慣れ親しんだ家具や写真、趣味で作成した作品などを居室に置くことで、今までの生活と似た空間になるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声掛け・見守りでご自分のできる事は自分でやって頂き、能力の維持に努めている。また、介助の必要な方には、必要以上の介助は避け、少しでも自力で出来る事があれば、安全に気を付け、見守りし自力でやって頂く。		